

テーマは、 「何かが変わる第一歩 ～出会い、夢。感動～」

よき仲間と出会い、学園祭という名の舞台で、クラスのみinnで力をあわせて企画を成功させた時の感動を実現しました。

新校舎での学園祭

今年の学園祭は、新築なった本館、2号館を使い、第2期建学宣言（礼節感謝・自修的努力・社会貢献）を標榜し、晴天の下盛大に実施されました。2学期に入り、早々に準備をはじめましたが、特に3年生などは進路決定時期でもあり、大変忙しい中、クラス全員が協力をしていました。前日の9/19に終日準備をし20日の文化祭に臨みました。



発揮!!星城高等学校生の心意気

合唱・弁論大会、ダンス大会などのイベントが多数ある中、ひときわ目立っていたのが、3年生優先で実施された飲食バザーでありました。中でも、3年1組が行った「チャイナを食いつくせ!!」は、餃子を中心に中華料理を研究し、調理にあたったもので、クラス全員がよく協力し、生徒間の審査で、アイデア賞を勝ち得ました。食した生徒たちからの評判もよく、クラスの団結の賜物であり、3年生で高校生活最後の学園祭を謳歌していました。他のクラスも、それぞれ計画・準備し、クラスのTシャツを作成するなど精一杯の努力をし、楽しむ姿が見られました。学園祭を通じ、星城高校生のはつらつとした姿を見ることができ、「やるべきことはやる」という心意気を感じた3日間でありました。



中高一貫教育 「感謝祭」 初めて合同で開催



飲食バザーで・・

仰星1・2年生は感謝祭2日目に飲食バザーを行い、中学生と保護者の方におでんや焼きそばなどを振舞いました。

役割分担を決め前日から、具材の切り分けや煮込みなどの仕込み、ゴミを可燃・不燃・資源に分類するよう看板をつくるなど多くの点で工夫が見られ、準備段階から楽しんでいる姿が目立ちました。

いよいよ本番・・

当日は早朝から調理にあたり、焼きそばをはじめ、みたらし、フランクフルト、おでん、かき氷、ポップコーンなどそれぞれ数百食を手際よくさばっていました。中学生や保護者、仰星3年生、教職員への応対も上手にこなし、「とても感じの良い接客態度で気持ちよく受け取りました」と保護者から声をかけていただきました。仰星の中庭に張った2つのテントには、人が賑わい活気に溢れ、お祭りにふさわしい楽しい雰囲気になっていました。調理担当の生徒だけでなく、ゴミ袋の回収や、洗い物、できた商品を運ぶなど、裏方で仕事をこなす生徒たちも一生懸命取り組み、参加した全員が自分の役割をしっかりと果たして、思い思いに楽しんでいる様子が印象的でした。中学生や保護者の方たちも、「直接仰星コースの生徒たちの姿が見られ、高校生活のすばらしい一面がわかった」と、喜んでくれていました。



仰星オリジナル「タップ&ソーラン」披露

仰星2年生は感謝祭第1日目に、新校舎のアトリウムでオリジナル「タップ&ソーラン」を披露しました。

企画・実行は
すべて生徒自身

振り付けはもちろん構成も生徒達が手がけ、ソーラン節の中にタップを見事に融合させた文字通り仰星オリジナルのソーラン節です。夏に行った修学旅行の交流会でも中国の同世代に披露し、大きな反響を受けました。

半年間の制作期間

生徒たちは、4月から半年間かけて完成させたソーラン節を、仰星の先輩・後輩と星城中学のみんなをはじめ、その保護者や星城教職員・学校長などの大ギャラリーの前で披露できることをとても誇りに感じていました。



喜びと達成感

1組の岩田さんの紹介に続き、2組の級長長坂君の掛け声とともに「タップ&ソーラン」は幕をあげました。活気ある掛け声と完成度の高いオリジナルダンスに、ギャラリーから惜しみない

歓声と盛大な拍手をいただきました。生徒達の少し緊張した面持ちの中には、喜びと達成感が満ち溢れていました。後輩達に是非伝統として受け継いでほしいという声が多く聞かれました。